

アール・ブリュットの魅力を伝えるために県に期待される役割について (たたき台)

目標実現に向けて必要な取組を次の5つの局面に分け、局面ごとに、当面県に期待される役割について考える。

このうち、造形現場に対する支援である局面 については、健康福祉部で別途研究・検討を行い、本委員会においては、アール・ブリュットの魅力を伝える取組である局面 について検討する。

局面	施設等での造形活動を支援（広げる）
局面	安心して造形活動ができる環境を整備（安定させる）
局面	アール・ブリュット作品の散逸防止（見つけ守る）
局面	アール・ブリュット作品を社会経済活動に位置づける（社会に出す）
局面	アール・ブリュットの魅力を発信（知ってもらう）

（１）局面 アール・ブリュット作品の散逸防止（見つけ守る）

<現状>

- ・作家本人や家族などの支援者が、作品を評価してもらえる場がほとんどない
- ・福祉施設等の造形現場では作品の取扱に統一的なルールはなく、評価が高まりそうな作品のみ残す、一定数以上は廃棄する、バザー等で販売するなど取扱は施設によって様々である
- ・作品や展覧会等の記録や資料が残っていない

<課題>

- ・福祉施設等の造形活動現場の人材育成 局面 にも関わる課題
- ・アーカイブとして作品（データ）等を記録し、保存することが必要

<当面、県に期待される役割（例）>

中間支援組織の育成
アーカイブとして作品等を記録し、保存する役割

（２）局面 アール・ブリュット作品を社会経済活動に位置づける（社会に出す）

<現状>

- ・アール・ブリュットへの高い認識や理解を持った人材が少ない
- ・作品を収蔵している公立美術館は国内にはほとんどない
その理由：美術史上に位置づけられておらず、客観的、明確な評価軸の設定が困難
市場価格など客観的な評価基準がない
- ・NPOや社会福祉法人が運営する、障害のある人による作品を展示する施設等が各地にできている（資料3）

- ・日本のアール・ブリュット作品を扱う国内ギャラリーも出てきているが少数
- ・施設等に直接出向き、まとまった量の作品を買い取る海外のギャラリーなども現れている

< 課題 >

- アール・ブリュット作品の固有性を考慮した市場の形成に向けて下記が必要
 - ・目利きによって評価される仕組み
 - ・ギャラリー（画廊）の設置を促進
 - ・創作現場、ギャラリー、県民が信頼関係をもってつながれる環境づくり（作家の権利保護のルールづくり等） 局面 にも関わる課題
- 県においてまとまった展示を行うためには県自らの収集が必要

< 当面、県に期待される役割（例） >

（美術館での研究）

美術館において研究する役割

（美術市場への紹介）

作品を美術市場に紹介するギャラリー（画廊）となりうる民間団体等の育成
民間団体等が育つまでの間、作品を美術市場に紹介する役割

（美術館等での収集）

美術館において一定作品を収集（公立美術館としての役割）
美術館以外で一定作品を収集、保管する役割

（３）局面 アール・ブリュットの魅力を発信（知ってもらう）

< 現状 >

- ・近年、国内美術館等におけるアール・ブリュット関係の展覧会が増えており、また、「アール・ブリュット・ジャポネ」展を契機に、新聞等のメディアで取り上げられる機会は増えたが、芸術面からの情報は限定的であり認知度が低い
- ・学校の授業で習わない
- ・年間を通じて作品に接することができる場や機会が少ない

< 課題 >

- ・アール・ブリュットに関する基礎的情報を、日常的に得やすくすることが必要である
- ・教育現場と連携する必要がある
- ・作品の実物に恒常的にふれることができる場所を拡充する必要がある

< 当面、県に期待される役割（例） >

アール・ブリュット全般について広く情報提供を行う役割
（知事によるトップセールスなどを始めとした世論形成を図る）
国内全域、アジアを視野に入れ相当数の作品を恒常的に展示する役割